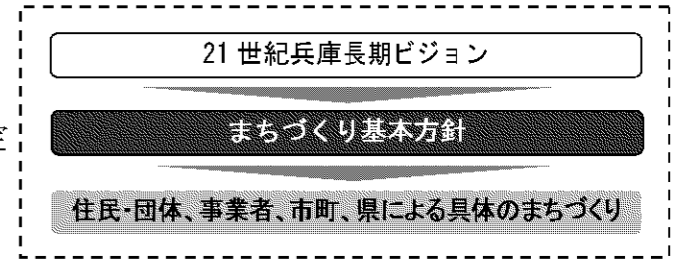


◆基本方針の位置づけ

- ・まちづくり基本条例第 10 条に基づく、まちづくり施策を総合的に講ずるための基本方針（平成 11 年 3 月のまちづくり基本条例の制定を受け、平成 12 年 3 月に策定、その後平成 19 年に改定）
- ・21 世紀兵庫長期ビジョン（以下、「長期ビジョン」）のまちづくり分野における基本的な方針として位置づけられており、平成 23 年 12 月の長期ビジョンの見直しに伴い改定
- ・長期ビジョンと同様に、2040 年を想定年次としてめざすべきまちの将来像を提示し、2020 年を目標年次として取組の方向性を明確化



◆改定の目的と視点

- ◇改定の目的
 - ・長期ビジョンの改定を受け、人口減少社会の本格到来や、東日本大震災等を契機とした防災対策や環境問題への関心の高まりなど、まちづくりを取り巻く社会状況の変化を踏まえたひょうごの新しいまちづくりの方向性を総合的に示すために改定（今後は長期ビジョンの改定に併せて見直し）

◇改定の視点

視点1 わかりやすさを向上

住民・団体、事業者、市町、県の共通理解が得られるよう、表現形式等を工夫しわかりやすさを向上

- ・本文をコンパクト化（データを別冊化）し、表現を文章形式から図表形式に改める
- ・「基本コンセプト」と「重点プロジェクト」をキャッチフレーズとし、要点をわかりやすくする
- ・県自らが取り組む重点施策を最後にまとめ、行政計画としてもわかりやすいものとする
- ・住民・団体、事業者、市町の取組の参考となるよう、データ集・事例集・指標集を追加する

視点2 「まちづくり」の対象範囲を明確化

基本方針が対象とするまちづくりの範囲を、「日常生活に係る空間づくり（ハード）」とそれに関係する人づくりや仕組みづくりなど（ソフト）」として明確化

概念	分野
空間づくり（ハード）	まちづくり 日常生活空間に直接関係しない 農林水産基盤整備等 土地利用、住宅政策、都市計画、景観行政、バリアフリー、建築行政、公共交通、花緑施策等
人づくり・仕組みづくりなど（ソフト）	
	日常生活空間に直接関係しない 生涯学習、産業育成等

視点3 兵庫の特性を踏まえた「4つの地域」を明確化

瀬戸内臨海部の大都市群から、多自然地域の小規模集落まで多様な地域を持つ兵庫の特性を踏まえ、長期ビジョンで示された4つの地域区分を、まちづくりの視点から明確化

①「農山漁村の小規模集落」
②「多自然地域の中心都市」
③「郊外のニュータウン」
④「瀬戸内臨海部の都市」

まちづくりの制度（都市計画法／緑条例）

4つの地域	多自然居住地域圏		都市圏	
	(周辺部) ①集落とその周辺	(中心部) ②地方都市	(周辺部) ③郊外ニュータウン	(中心部) ④都市中心部
定義	多自然地域に存在する集落を中心に、②、③、④、を除く区域を指し、具体的には下記の区域を目安とする。	瀬戸内臨海部以外の地方都市の中心市街地とその周辺を指し、具体的には下記の区域を目安とする。	高度成長期以降に開発された住宅地など都市の郊外部を指し、具体的には下記の区域を目安とする。	瀬戸内臨海部の高度成長期以前から存在する既成市街地を指す。
都市計画法区域	市街化区域	合併前の市町(91市町)の中心市街地(「④都市中心部」を除く)	「④都市中心部」を含む都市計画区域の市街化区域のうち「④都市中心部」を除く区域	阪神から姫路にかけて連担する既成市街地
	市街化調整区域	特別指定区域(地縁者の住宅区域)に指定されている地区等の集落		
緑条例※	4号区域	全域		
	1, 2, 3号区域	全域		

※緑豊かな地域環境の形成に関する条例における環境形成区域区分

参考: まちづくりの諸制度

視点4 4つの地域の「懸念されるシナリオ」と「めざすべき将来像」を提示

県民と共通の時代認識に立った上で、4つの地域における懸念されるシナリオと目指すべき将来像を明確に提示し、共有

懸念されるシナリオ

頻発する災害や人口・世帯数の減少と高齢化等から、このまま放置すれば陥ってしまうまちの将来像を提示

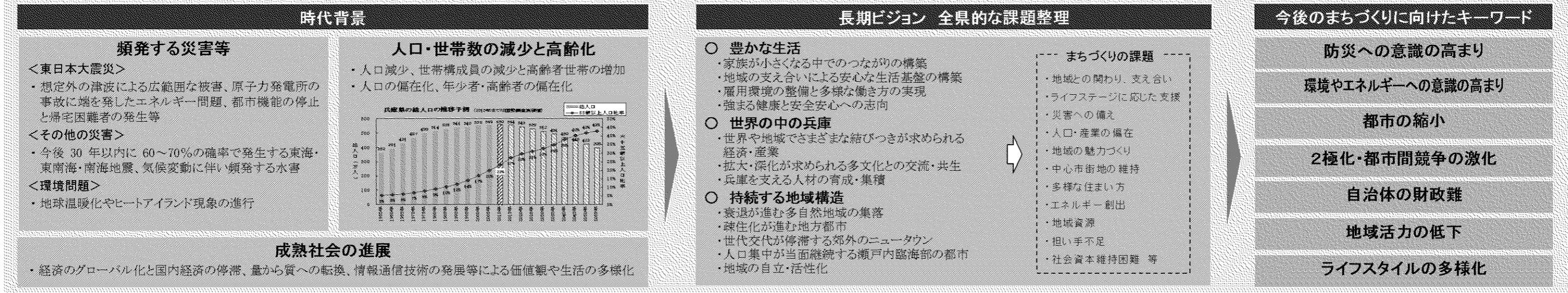
めざすべき将来像

地域のまちづくり主体（住民・団体、事業者、市町、県）の参画と協働により、左記の懸念されるシナリオを克服してめざすべきまちの将来像を提示

まちづくり基本方針（改定素案）Ⅱ 2020年に向けたまちづくりの基本コンセプト

◆時代認識の共有

時代背景、長期ビジョンの課題整理を踏まえ、今後のまちづくりに向けたキーワードを抽出することで、まちづくりの視点から時代認識を整理し、県民と共有



◆4つの地域の「懸念されるシナリオ」と「めざすべき将来像」

県民と共通の時代認識のもと、2040年を想定した地域における懸念されるシナリオとめざすべき将来像を明確に提示

集落とその周辺		地方都市	
<p>懸念されるシナリオ</p> <p>地域の崩壊</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域生活が維持できず小規模集落が崩壊 農地、森林、里山の荒廃による水源涵養等の機能不全 災害時の集落孤立化 	<p>めざすべき将来像</p> <p>つながりが育む豊かな暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民の憩いの場、食料やエネルギーの源 森づくりや都市と農村の交流が仕事を生む 地域の伝統が親から子へ継承され共に暮らせる社会 	<p>懸念されるシナリオ</p> <p>生活拠点の喪失</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の機能低下により周辺地域の生活拠点が喪失、周辺地域の衰退が加速 合併による地域格差が拡大 	<p>めざすべき将来像</p> <p>個性あふれる地域の核</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の経済、文化の中心 都市機能が集約した歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり 周辺地域や遠方からの交流の結節点
郊外ニュータウン		都市中心部	
<p>懸念されるシナリオ</p> <p>荒廃する住宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> センター施設の老朽化、陳腐化や公共サービスの低下により買い物難民の発生、高齢者移動に支障 利便性の差により地域格差が拡大 	<p>めざすべき将来像</p> <p>住民主役の成熟したまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画された都市基盤による高い安全・安心やまちの「ゆとり」による環境との共生 住民自身が主役となり様々なビジネスがまちの機能を補充 	<p>懸念されるシナリオ</p> <p>活力の低下</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域的に激化する都市間競争に敗北 富裕層、若年層が流出 災害対策の遅れによる被害の甚大化 	<p>めざすべき将来像</p> <p>魅力あふれる先端都市</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な産業・商業・人材が集積する便利で快適な都市 誰もが安心して快適に暮らし、集い、働く 災害時への対策と物・サービス・情報が充実

◆4つのテーマの設定

県民と共通の時代認識のもと、今後のまちづくりに関して重要な4つのテーマを設定

<p>安全・安心のまちづくり</p> <p>東海・東南海・南海地震等に備えた都市機能の確保と迅速な復興への取組、利用者目線での福祉のまちづくりなど、まちの安全・安心の確保</p> <p>安全に暮らせるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災、減災対策 ○大災害時の都市機能の確保と迅速な復興 ○防犯、交通事故防止対策 <p>安心して暮らせるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者・障害者等の安心 ○子育て層の安心 ○若年層の安心 ○外国人の安心 	<p>環境と共生するまちづくり</p> <p>自然環境・生物多様性の保全再生、住宅やまちの低炭素・省資源・エネルギーの自給などによる環境との共生</p> <p>自然環境と調和するまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然環境、生物多様性の保全再生 ○農地、森林、里山の保全再生 ○都市緑化 ○県民の環境意識の醸成 <p>低炭素・創エネのまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住宅・建築物の低炭素化 ○都市の低炭素化 ○再生可能エネルギーの導入促進 ○地域のエネルギー源の多様化とエネルギーの自給
<p>魅力と活力あるまちづくり</p> <p>地域の宝・個性の再発見と発信による地域の魅力づくりと、都市のコンパクト化など土地利用の工夫による地域活力の増進</p> <p>魅力を創るまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の個性ある景観の形成と広域景観の形成 ○歴史・文化等地域資源の活用 <p>活力を生み出すまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中心市街地活性化 ○活力を生み出す都市基盤整備 ○地域の活性化に向けた土地利用誘導 ○空き空間の活用 	<p>自立と連携のまちづくり</p> <p>人と人、地域と地域の交流や連携の促進による持続人口（定住人口+交流人口）の確保と地域の自主・自立</p> <p>地域が自立するまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世代間バランスの確保 ○地域コミュニティの活性化 ○地域の担い手の育成 ○住民によるエリアマネジメント ○移動手段の確保 <p>交流と連携のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多自然・二地域居住 ○多様な交流基盤整備 ○地域間交流と連携 ○都市・地域間を繋ぐ交通網の整備

◆基本コンセプト

2020年に向けて全県でめざす成熟社会のまちづくりの基本コンセプトを設定

基本コンセプト **地域がつくり、未来へつなげるまちづくり**

これからのまちづくりは地域が主体。県民一人ひとりが主役となって、持続可能な地域をつくる。安全・安心で環境と共生した地域、魅力や活力にあふれ自立した地域を、交流と連携のもとにつくり、「創造と共生の舞台・兵庫」の実現をめざす。

◆地域で取り組む重点プロジェクト

懸念されるシナリオを避け、めざすべき将来にたどり着くために、基本コンセプトのもと、住民・団体、事業者、市町、県が連携し地域で重点的に取り組むべきまちづくりの方向性を提示

基本コンセプト 地域がつくり、未来へつなげるまちづくり

安全・安心のまちづくり

環境と共生するまちづくり

魅力と活力あるまちづくり

自立と連携のまちづくり

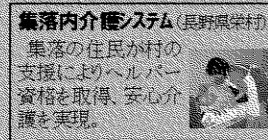
集落とその周辺 「絆」による暮らし再生プロジェクト

世帯数の減少により、公共インフラやサービスの維持が困難になり、地域活力の喪失が懸念される「集落とその周辺」において、これまでの「絆」の継承と新たな「絆」の創出により、自立・持続した豊かな暮らしづくりを進める。

◆「つながり」で築く安全と安心

安全安心

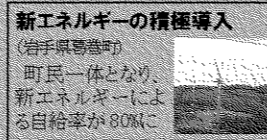
- ・避難と孤立防止に重点を置いた災害対策
- ・移動や買い物など暮らしの安心確保



◆都市へ「つなぐ」自然・食料・エネルギー

環境共生

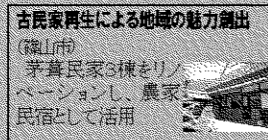
- ・遊休地を活かす創エネの推進
- ・自然環境の保全と継承、資源循環型の暮らしの実現



◆地域の魅力が「つなげる」しごと

魅力活力

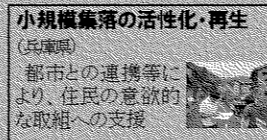
- ・豊かな暮らしや伝統文化など、地域の魅力の発見・発信と、しごとへつなげる取組



◆世代を超えて「つながる」むらへ

自立連携

- ・UJIターン者を活かした地域の担い手育成
- ・集落の自立、集落間や地方都市との連携



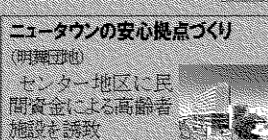
郊外ニュータウン 住民が主役のニュータウン再生プロジェクト

住宅需要の低下と人口構成の歪みにより、住環境の悪化や地域活力の低下が懸念される「郊外ニュータウン」において、住民自身が主役となった、空き空間を活用したコミュニティビジネス等を支援するなど、多世代が支え合う持続するまちの再生を進める。

◆住民がつくる安全で安心な「まち」へ

安全安心

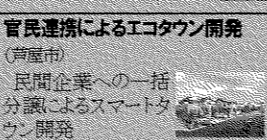
- ・宅地の耐震化と自主防災組織の強化
- ・地区センター等のユニバーサルデザイン化



◆ゆとりある空間で環境最先端の「まち」へ

環境共生

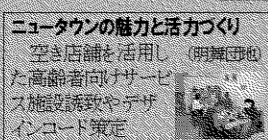
- ・住宅やまちの低炭素化や創エネ、自然との共生に向けたモデル的取組



◆魅力としごとを生み出す「まち」へ

魅力活力

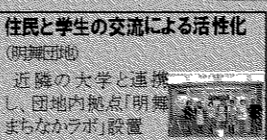
- ・空き地・空き家等を活用した住民による新たなサービスや「しごと」の創出



◆多様な人材が活躍できる「まち」へ

自立連携

- ・若年世代を呼べる住環境づくり
- ・住民の経験・能力を活かした担い手育成
- ・ニュータウン再生の取組の活用



地方都市 個性あふれる地方の拠点創造プロジェクト

市街地の衰退が進み、地域の生活拠点性の喪失が懸念される「地方都市」において、まちなかの空き空間などの積極活用や都市機能・住宅・生活サービス施設の立地誘導により、多自然地域の自立を担う核としての都市づくりを進める。

◆地域の安全・安心の核となるまちへ

安全安心

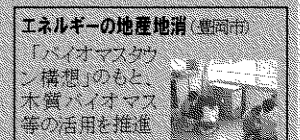
- ・周辺地域の災害対策拠点としての備えの充実
- ・周辺地域の安心拠点の形成



◆エネルギー・食の地産地消による自立したまちへ

環境共生

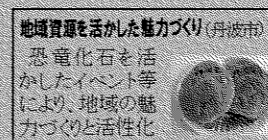
- ・地域の自然や気候を生かしたまちづくり
- ・地域エネルギーの効率化・自立化



◆個性が集まり賑わうまちへ

魅力活力

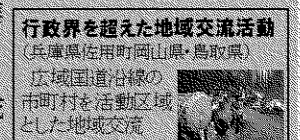
- ・地域の多様な歴史・文化の発見と発信
- ・まちの集約による賑わいと利便性の向上



◆さまざまな人が交流する結節点へ

自立連携

- ・空き空間を活用した交流促進と担い手育成
- ・広域交通整備と地域交通対策
- ・周辺地域との連携による広域な地域づくり



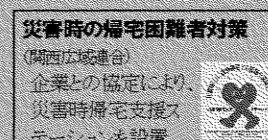
都市中心部 ひょうご都市ブランド構築プロジェクト

地域経済の縮小や都市機能の更新・集積の遅れなどにより、都市の魅力の喪失が懸念される「都市中心部」において、利便性・賑わい・安全性を高めることで、多くの人々が安心して快適に暮らし・集い・働ける、まちの個性が輝いた都市づくりを進める。

◆安全・安心の拠点都市へ

安全安心

- ・大規模災害に備えた都市機能確保と迅速な復興対策
- ・災害、交通、防犯等ハード・ソフトにわたる総合的な安全安心システムの構築



◆多様なエネルギー源をもつ低炭素都市へ

環境共生

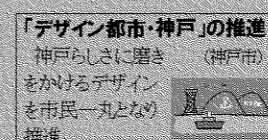
- ・建築と都市の低炭素化、緑あふれる都市空間の構築
- ・都市のエネルギー源の多様化・分散化



◆歴史、文化、産業が輝く中心都市へ

魅力活力

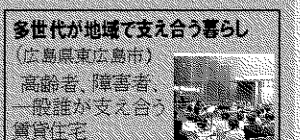
- ・個性あふれる都市ブランドの構築
- ・先端的な都市機能の適正配置



◆多選択・多参画型都市へ

自立連携

- ・多様な住まい方の創出
- ・多様な人材の活用
- ・ひょうごの要としての機能充実
- ・世界にはばたく交流都市づくり

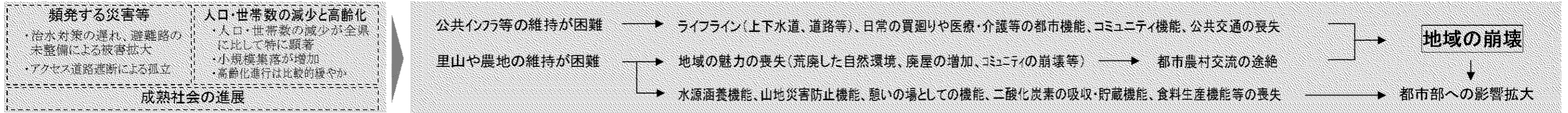


まちづくり基本方針（改定素案） Ⅲ 地域のまちづくり（①集落とその周辺）

懸念されるシナリオ

地域の崩壊

世帯数の減少により**公共インフラや公共サービスの維持が困難**となることが懸念。「**村移り**」を選択せざるを得なくなった集落が多く発生すると、貴重な食糧基地である**農地や水**を育む**森林の崩壊**が進む。



つながりが育む豊かな暮らし

豊かな自然を有する多自然地域は、**県民の憩いの場、食料やエネルギーの源**となっている。集落では、地域の伝統、誇り、愛着が**親から子へ受け継がれ**、それを愛する**都市住民との間に新たな絆**が生まれ、都市と農村の交流が生み出す新たな仕事により、**子世代が親世代と共に地域で暮らす社会**を再現している。

めざすべき将来像

安全・安心のまちづくり	環境と共生するまちづくり	魅力と活力あるまちづくり	自立と連携のまちづくり
<p>豊かな自然に恵まれたこの村に若かれ、博一(39)さん、京子さん(36)夫妻がこの地に移り住んだのは10年前。集落内の半数は移住組だが、みな周囲に溶け込み、地域との絆が生まれている。先日も地区の寄り合いに参加し、災害時の避難場所や一人暮らしの老人の避難誘導方法について話し合った。</p> <p>地域の防災・減災対策が向上している</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波や水害時の被害想定が地域で共有され、万が一の場合の移転先等、事前の復興計画が策定されている 津波時の避難路や避難方法、要援護者への支援方法が確立している 災害時のアクセスルートの多重化と孤立した場合の連絡手段や物資支援方法も確立され、誰もが理解している <p>誰もが安心して暮らしている</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な日用品移動販売も行われ、都市からの移住者が運営するデマンドタクシーにより、設備の整った医療、介護施設が立地する地方都市へのアクセスが容易になっている 顔なじみによる見守りや介護の仕組みによって、高齢者や子供等が安心して暮らしている 	<p>この村は集落ぐるみでの地域経営が特徴で、博一さんの発案で設置された小水力発電事業は、村の貴重な収益源になっている。また、パートナーシップ協定を結んでいる都会の自治会へ生産物の直送を行うとともに、週末には「自然体験ひろば」が開催され、区長の憲之さん(70)が都会の子供達に地域の動植物や農産物の紹介を行っている。</p> <p>都市へのエネルギーの供給源となっている</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域内での食料・エネルギーの自給自足が行われている 水力発電やバイオマス、メガソーラー等により再生可能エネルギーが創出され、周辺地域や大都市にも供給されている <p>自然環境や農地が次世代へ継承されている</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市ボランティア等によって森林や里山、農地が適正に管理されている 自然環境体験に都会から多くの家族連れが来訪する 自給自足、ゼロエミッションの環境と共生する暮らしが実践され、さらに貴重種が保護され、野生動物と共生した暮らしが実践されている 営農組合等が集落の遊休農地を集約した大規模営農を実施している 	<p>地域の歴史・文化の顔とも言える古民家は、集落が経営する有機野菜を使った農家民宿レストランとなっている。以前大阪の旅行社に勤務していた、憲之さんの息子の智之さん(38)がマネージャーを務めている。彼は、その知識やノウハウを活かし、農家民宿経営と併せた観光事業で、村に多くの雇用場を生み出している。</p> <p>地域の豊かな住環境が大切にされている</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域毎の個性ある景観が保全されている 地域ルールにより、空き家が適正に管理され、必要に応じて活用、解体されている <p>地域資源が新たな地域の魅力や仕事を生んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> 農林漁業体験や田舎暮らしの基盤整備と情報発信が充実している 古民家改修の農家民宿や観光地を巡るツアーが頻繁に実施されている 見守りやコミュニティ交通等の生活サービス、地域の農産品や加工特産品の通販や自然系芸術、自然体験等の交流サービスが生まれている 創エネルギーが新たな地域産業になっている 	<p>智之さんは、大人になり集落を出た仲間ともSNSでつながっており、毎年祭りの時期になると数ヶ月前からネットで当日の役割分担まで決める中心人物だ。集落へ帰ってからは、大阪時代のジャズバンド仲間を加え、祭りを現代風にアレンジして全国的に話題となった。さらに地域の見守り事業やコミュニティバス事業を運営し、地域の生活を支えている。</p> <p>地域への愛着が次世代へのつながりと新たな担い手を育てている</p> <ul style="list-style-type: none"> 祭りや伝統が大切にされ、親から子へ継承される 専門家のアドバイスのもと、住民による村ビジョンが策定され、地域を出た村民にも共有されている 近隣の集落や、都市からの移住者で人口が増加する村も多くなっている <p>田舎暮らしを選択する人が増えている</p> <ul style="list-style-type: none"> 農や自然に興味を持つ多世代が活発に交流、定住者も増えている

地域で取り組む重点プロジェクト

「絆による暮らし再生プロジェクト」

地域がめざすまちづくり指標 例: **村祭り参加者数** **耕作放棄地面積率**

取組方向

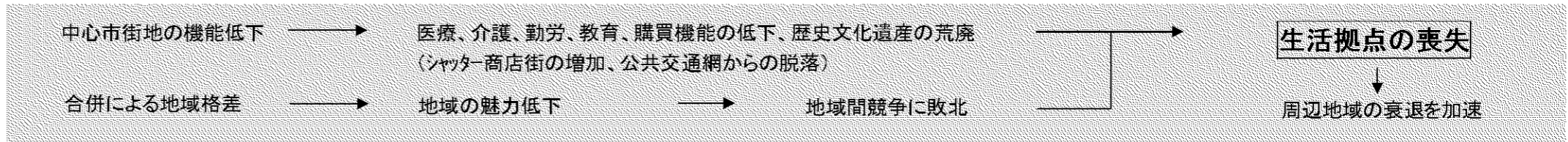
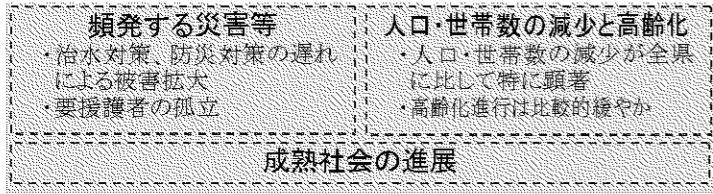
「つながり」で築く安全安心	都市へ「つなぐ」自然・食料・エネルギー	地域の魅力が「つなげる」仕事	世代を超えて「つながる」むらへ
<p>避難と孤立防止に重点を置いた災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災時の集団移転先の確保等、大規模災害に備えた事前復興計画づくり 密集集落の耐震化、不燃化、海岸集落の避難対策 老朽住宅の除却に向けた方策の検討 <p>移動や買い物など暮らしの安心確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 集会所や公共施設のユニバーサルデザイン化 地縁を生かした地域住民の見守りや介護システム 移動販売等、日常生活用品の調達方法の検討 集落内のコミュニティバス支援と地方都市へのアクセス確保方策の検討 	<p>遊休地を活かす創エネの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模遊休地や耕作放棄地でのバイオマス・地熱・水力発電・太陽光発電等の創エネ施設の立地推進 <p>自然環境の保全と継承、資源循環型の暮らしの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 農地、森林や里山の保全 生物多様性の保全 自然環境学習の充実や、団塊世代や次世代の担い手を育てる仕組みづくり 地産地消の推進、ゼロエミッション型農業の推進 	<p>豊かな暮らしや伝統文化など、地域の魅力の発見・発信としごとへつなげる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域景観と広域景観形成の推進 古民家の保存や改修、利活用の推進 老朽空き家の管理や撤去のルールづくり支援 農林漁業体験や田舎暮らしの推進 空き空間の活用による生活サービスや交流サービス、加工特産品開発等の新たな取組のビジネス化 空き空間での創エネ施設の立地推進 緑化活動を媒介したコミュニティづくりと環境創造 	<p>U/Iターン者を活かした担い手育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 多自然居住、二地域居住の推進 地域の祭り、イベントの推進や村ビジョンの策定 地域経営のための公的資産の活用や担い手育成 空き空間活用で、多世代が多様なつながりを創出する仕組みづくり <p>集落の自立、集落間や地方都市との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市農村交流の促進 地域の選択による村移りへのしくみづくり 集落間の連携や機能配分、地方都市との連携の促進

まちづくり基本方針（改定素案） III 地域のまちづくり（②地方都市）

懸念されるシナリオ

生活拠点の喪失

合併後の地方都市は**2極化**の懸念。**中心市街地の衰退**がさらに進み、公共交通が失われた都市が現れると、都市の周辺では**地域の生活拠点が失われ**、地域の衰退が加速する。



個性あふれる地域の核

地方都市は、地域の経済や文化の中心として、災害時の安全や地域エネルギーが確保され、医療・介護・勤労・教育・購買等の**都市機能が集約**されることで、歩いて暮らせる**コンパクトなまちづくり**が進み、周辺地域や遠方からの**交流の結節点**となっている。

めざすべき将来像

安全・安心のまちづくり	環境と共生するまちづくり	魅力と活力あるまちづくり	自立と連携のまちづくり
<p>靴屋3代目の浩之さん(43)は、老朽化が激しい商店街をリニューアルすることが夢だったが、商店会長への就任を機に、市の助成制度を活用し商店街のバリアフリー化を実現した。また、地区連合会と協働して災害時避難経路や多目的トイレ等の情報マップづくりや緊急情報連絡システムづくりに取り組み、その活動がこのたび県知事賞として評価された。</p> <p>周辺地域の災害対策拠点となっている</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模災害による都市機能喪失に備え、迅速な仮設住宅建設やガレキ処理、復興計画策定ができる体制が整っている 建築物の耐震化や建替が完了し、宅地の耐震化も確保されている 災害時の避難や要援護者への支援方法が確立している <p>地域生活の安心の核となっている</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療施設、介護施設が充実し、周辺の集落の居住者の安心拠点となっている バリアフリー化が進み、高齢者や子育て世帯、外国人等誰もが安心して暮らすことができる 地域ぐるみの防犯、安全活動により犯罪や、交通からの安全が確保されている 	<p>弟の静司さん(40)は最近駅前のマンションに引越した。ここは母親の通院に便利で、駅前にもかかわらず緑とゆとりに溢れたまちだ。この地域は町工場の撤退が増えたため5年前に都市計画を変更し、市街地開発事業を実施した地域だ。生活利便施設や医療、介護に加え、地産地消のレストランなどが集積し、周辺地域の中心となっている。</p> <p>地域のエネルギーが自立している</p> <ul style="list-style-type: none"> 住替えや集約に伴う空き空間が菜園、太陽光やバイオマス等の創エネ施設としても活用されている 創エネ、省エネ、蓄エネの組み合わせにより、エネルギーの効率活用と地産地消が進む <p>地域の自然や気候を生かしたまちづくりが進んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩いて暮らせるまちとなり、公共交通が活用されている ゆとりある住宅の庭や、道路・公園の緑が周辺環境と調和し、地域の動植物と共生した緑豊かなまちが実現している 住宅には地域の木材が活用され、高い断熱性能、パッシブソーラーや太陽光発電設備を備えた住宅が普及し、低炭素化が進んでいる 	<p>奥さんの直子さん(35)は海外企業のコールセンターに努めている。都市機能集積により生まれた空間に昨年立地したのだ。職場から自宅に向かう「柳街道」と呼ばれる、直子さんお気に入りの川沿いの道路には厳しい景観ルールが定められ、地域の誇りとなっている。仕事が終わると柳街道を歩き、娘(4)を保育園に迎えに行くのが直子さんの日課だ。</p> <p>地域の個性が発見・発信され、新たな仕事を生んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域景観ルールにより地方独特の景観が保全され、歴史や物語と複合して広域的な観光ルートが整備されている 個性ある歴史文化、まちなみ、建築物などの資源が保存・継承され、新たな産業や人を誘引する魅力となっている 地域固有の農産物や料理、工芸品などを活用した様々なビジネスが生まれている <p>まちなかの利便性が向上し、賑わいが生まれている</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市機能の集約により中心市街地の利便性が高まり、周辺地域の文化的な暮らしを支えている 周辺の集落の居住者も頻りにまちを訪れ、まちなかは人口以上の賑わいを見せている 	<p>叔父の靖浩さん(70)は、車で30分の集落に住み、NPO代表として農業体験を主催している。昨年から持病が悪化したため、コミュニティバスに乗り、駅前の病院に通院しているが、帰りは田舎暮らし情報センターに顔を出し、若者とおしゃべりするのを楽しみだ。商店街の空き店舗を活用したセンターは、周辺の集落の情報が集まる拠点として賑わっている。</p> <p>内外の多様な人々による交流が進んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> 田舎暮らし愛好者や地域文化研究者等、地域固有の歴史や文化に惹かれた様々な人々が居住し、地域住民とともに地域の活動・交流拠点となっている <p>広域交通と地域交通の結節点となっている</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域間の基幹交通網の整備により、他都市へ短時間の移動が可能になるとともに、周辺の集落からの道路、バス、コミュニティ交通などのターミナルとなっている <p>広域的な地域づくりが進んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺からの通勤、通学、医療福祉、購買等の中心地となっている 地域間の広域連携により、機能や人材が補完されている 広域的な祭りやイベントが行われ、地域のアイデンティティを形成している

取組方向

地域で取り組む重点プロジェクト

「個性あふれる地方の拠点創造プロジェクト」

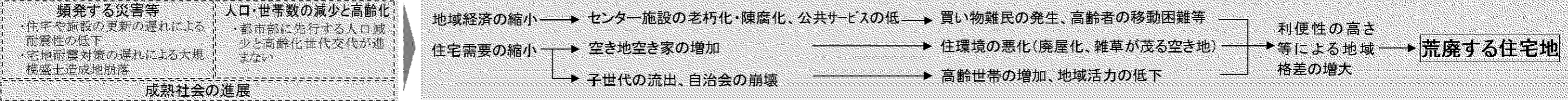
地域がめざすまちづくり指標 例: **中心市街地売上率** **観光客入込数**

地域の安全・安心の核となるまちへ	エネルギーの地産地消で自立したまちへ	個性が集まり賑わうまちへ	さまざまな人が交流する結節点へ
<p>周辺地域の災害対策拠点としての備えの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 大災害に備えた地域ごとの防災計画、最低限の都市機能確保計画、事前復興計画の策定 災害時の避難計画と避難路の安全確保 要援護者の把握と支援方法の検討 住宅や施設の耐震化・耐水化と宅地耐震化の推進 <p>周辺地域の安心拠点の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療福祉施設の集約 小規模駅舎のバリアフリー化やノンステップバスの導入推進 利用者目線での福祉のまちづくりの推進 地域連携による防犯、交通安全体制の整備 	<p>地域エネルギーの効率化・自立化</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺遊休地や都市内の空き空間の創エネ施設の設置推進 都市廃熱や雨水の積極活用 建築物や開発地への自立したエネルギー源の導入推進 節電や省エネルギーな暮らしの普及、啓発 <p>地域の自然や気候を生かしたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> パークアンドライドや自転車の活用等、自動車に過度に依存しない暮らしの推進 道路、公園、河川、建築物の敷地や屋上、空き空間緑化 都市内農地の保全活用 地域環境に応じた住宅等の普及促進やインセンティブの付与 	<p>地域の多様な歴史・文化の発見と発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 沿道景観や広域景観の形成 歴史的まちなみや近代化遺産、産業遺産等の保全、活用 地域のまつり、イベントの促進 <p>まちの集約による賑わいと利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺地域からの都市機能の集約と、拡散防止に向けた規制の検討 まちの賑わいと利便性向上に向けた市街地整備の推進 空き地、空き家、空き空間の活用促進 住民による地域資源を活用したコミュニティビジネス推進 新サービスや技術と既存資源の融合による新地域産業創出 	<p>空き空間を活用した交流促進と担い手育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 多自然居住、二地域居住の推進 空き地、空き家、空き空間の活用促進 都市の多様なニーズに応えるNPO等への支援 地域空間や地域施設の「新しい公」による運営の促進 <p>広域交通整備と地域交通対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域と地域を繋ぐ基幹交通網の整備 きめ細かなコミュニティビジネス交通の支援、育成とモビリティマネジメントの推進 <p>周辺地域との連携による広域的な地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 集落と地方都市や地方都市間の広域的な連携の促進

まちづくり基本方針（改定素案） III 地域のまちづくり（③郊外ニュータウン）

懸念されるシナリオ

荒廃する住宅地 人口減少により**収縮した住宅需要**は、都市の周辺部である郊外ニュータウンに最も大きな影響を及ぼす。利便性や住環境の差による**地域間の格差**が大きくなり、**荒廃する地域の出現**が懸念される。



住民役の成熟したまち 計画された都市基盤による高い安全・安心と、まちの「ゆとり」による**環境との共生**を併せ持った郊外ニュータウンは、ベッドタウンから、**住民自身が主役**となり、様々なコミュニティビジネスがまちの機能を補完し、**多世代が連携する**普通のまちに生まれ変わっている。

めざすべき将来像

安全・安心のまちづくり	環境と共生するまちづくり	魅力と活力あるまちづくり	自立と連携のまちづくり
<p>3才の時からここで暮らしている康雄さん(68)の自宅は、10年前に耐震補強済。元消防署員の経歴から、防災グループのリーダーでもある康雄さんは、今日も地域に新規入居した新婚夫婦へまちの防災計画の説明に赴く。建替えが終わったばかりのセンター施設には、介護付き住宅と福祉施設も併設され、康雄さんも将来の入居について検討中だ。</p> <p>地域の防災・減災対策が向上している</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築物や宅地の耐震化が確保されている 自主防災組織や防犯組織が活発に活動し、地域の防災、防犯体制、要援護者の支援体制が確立している 住宅の管理や維持保全への意識が高まり、適切な維持管理、更新が行われ、中古住宅流通による世代更新が進んでいる <p>センターや公共施設が安心して利用できる</p> <ul style="list-style-type: none"> センターの商業施設や公共施設の改修が進み、誰もが安心して利用している 団地内には高齢者等の移動も容易な公共交通が整備されている 	<p>奥さんの智子さん(61)は、環境活動に熱心で、自宅の改修にあわせ屋根に太陽光発電設備、庭に雨水貯留タンクを設置したのも彼女の主張だ。地域でのカーシェアリンググループに入り愛車を手放した。隣家の土地を共同購入し運営した菜園も地域で評判になり、春に孫の豊くん(10)が植えたスイカももうすぐ収穫時期だ。</p> <p>住宅の低炭素化の先進地域になっている</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域による太陽光発電設備の集団導入が行われている 発電設備や省エネ設備によるゼロエネルギー型住宅地が開発されている <p>都市の低炭素化の先進地域になっている</p> <ul style="list-style-type: none"> 団地内の空き空間に創エネ施設が立地し、スマートコミュニティによる効率的なエネルギー活用が実現している カーシェアリングの他、電気バスや燃料電池バスが主要交通となっている <p>自然との共生ができる先進地域になっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ブロック塀は生垣に代わり、まちなかに緑が溢れ、安らぎの空間が形成されている 地域内のピオトープには近郊から鳥や昆虫が訪れている 	<p>幼なじみの義明さん(68)は地域ファンドの助成を活用し、センターの空き店舗で不要家具の補修事業を始めた。建築士でもある義明さんは、変化する団地の暮らしや景観を発信するWEBサイトを運営し、宅地の細分化を防止する地区計画の策定に取り組んできた。こうした活動はネットで評判になり、仲間も増え、デザインコードづくりに活動が広がった。</p> <p>地域内に新たなサービスや「しごと」が生まれている</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療や介護、教育施設が立地し、用途混在が進んでいる 住民の工夫により空き時間・空間を活用した新しいサービスが生まれている 団地の文化や景観が発信され、地域の新たな資産になっている <p>まちの景観や空き空間は地域により管理・活用されている</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観ルールにより、ゆとりある美しいまちなみが保全され、沿道の景観や土地利用もコントロールされている 地域ファンドを活用し、地域により空き地・空き家の取得が進んでいる 人口減少にあわせ、宅地の細分化防止やゆとりの確保に重点をおいて地区計画が策定 	<p>義明さんの活動には多くの仲間が集まり、法人化の準備を進めている。法人には近隣の大学生も参加し、家具だけでなく、大学生や退職者等と協働した住宅改修、戸建に住む高齢単身世帯の庭の管理事業等も手がける計画だ。義明さんは最近とても忙しく、康雄さんは少し寂しい。今度、センターの居酒屋で一杯やろうと約束しているのだが・・・。</p> <p>多世代による多様なコミュニティが実現している</p> <ul style="list-style-type: none"> シェアハウスやグループホーム、地域内の住替えなどにより、多世代がバランスよく居住している 趣味活動やコミュニティビジネスなど、多様な人材が空き時間、空き空間を活用し交流し、活動を広げている 経験豊かな住民が地域のリーダーとなり、住民主体の地域マネジメントが進んでいる <p>様々なライフスタイルに対応できるまちになっている</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市へのアクセスの良さや地域内のゆとりある空間などにより、様々なライフスタイルが可能となっている

取組方向

地域で取り組む重点プロジェクト

「住民が主役のニュータウン再生プロジェクト」

地域がめざすまちづくり指標 例: **活動団体数** **センター施設空き店舗率**

住民がつくる安全で安心な「まち」へ	ゆとりある空間で環境最先端の「まち」へ	魅力と仕事を生み出す「まち」へ	多様な人材が活躍できる「まち」へ
<p>宅地の耐震化と自主防災組織の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 宅地耐震化と、住宅や施設の耐震化、不燃化、避難対策 公的住宅、民間住宅の老朽化対策 自主防災組織の支援 要援護者の把握と支援方法の検討 <p>地区センター等のユニバーサルデザイン化</p> <ul style="list-style-type: none"> センター等の商業施設や公園、駅舎等公共施設のバリアフリー化推進 センター施設等への介護・福祉機能の導入 	<p>住宅やまちの低炭素化や創エネ、自然との共生に向けたモデル的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域合意による空き地や空き空間への創エネ施設、水・緑の導入や空き地の菜園化 低炭素な交通システム(コミュニティバス、カーシェアリング、パークアンドライド)の導入 創エネ施設を備え、エネルギー利用の効率化が可能な団地の開発 公共交通や低炭素な交通システムの開発時からの導入 都市農地の保全と再生 	<p>空き地空き家等を活用した住民による新たなサービスや「しごと」の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> センター施設への新たな機能・サービス導入の推進 地域の空き空間を活用した、地域住民による取組のコミュニティビジネス化 空き空間への創エネ施設立地促進 地区計画の策定と見直し 地域ごとの新たな景観ルールの策定推進 空き地・空き家対策の推進 団地の歴史、団地の資産の発掘 	<p>若年世代を呼べる住環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> シェアハウスやグループホームの導入 中古住宅の流通促進と世帯ニーズに応じた適切な住宅への住替え促進 <p>住民の経験・能力を活かした担い手育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き空間の交流スペースやチャレンジショップへの活用など、多世代による多様なつながりの創出 住民による地域経営に向けた人材育成と公的資産の活用 <p>ニュータウン再生の成果の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 明舞団地における取組や成果の整理と発信 明舞団地再生の成果を活用した地域のニュータウン再生

まちづくり基本方針（改定素案） III 地域のまちづくり（④都市中心部）

懸念されるシナリオ

活力の低下

産業や商業の活性化に失敗すれば、雇用の場も減少。インフラ更新遅延により安全性も低下、都市間競争に敗北すれば、富裕層や若年層が流出し、高齢者だけが取り残され地域活力が低下す

頻発する災害等 ・インフラ更新の遅れによる地震被害、都市水害の甚大化 ・高齢者や障害者、外国人等が都市で孤立し避難が遅れ	人口・世帯数の減少と高齢化 ・人口減少率の都市間格差が大 ・人口、世帯数は当面増加も2025年には減少に ・高齢化率の増加が顕著
---	--

成熟社会の進展

地域経済の縮小

都市機能の更新、集積が遅延

都市の魅力の喪失

- 大規模店舗の撤退
- 工場や事業所の撤退
- 公共施設の老朽化

- 利便性の低下
- 働く場所の減少
- 公共サービスの低下

都市間競争に敗北

富裕層・若年層の流出

活力の低下

魅力あふれる先端都市

連担するまちの個性が輝き、産業・商業が集積する利便性の高い快適な空間の魅力に惹かれた多様な人材が集まる都市中心部は、賑わいと活力の溢れるまちが形成されている。災害対策がさらに充実し、誰もがあらゆるモノやサービス・情報を必要なときに入手でき、誰もが安心して健康で快適に暮らし、集い、働くことができている。

安全・安心のまちづくり

昭武さん(32)と夏姫さん(28)は、6月の結婚を控えて新居となるマンションを購入した。このマンションは免震構造で津波時の避難ビルにも指定されており、ライフラインの途絶に備えた1週間の備蓄もある。今日は、まちづくり協議会のリーダー勝さん(55)から、今後の災害に備えた防災体制等の説明を受けた。

災害に強い都市構造となっている

- 大規模災害による都市機能喪失に備え、迅速な仮設住宅建設やガレキ処理、復興計画が策定できる体制が整っている
- 建築物は免震構造や制震構造により安全が確保され、また雨水は貯留システムにより非常時や漏水に活用されている
- 緊急輸送路や避難路、避難所となる公共施設や津波避難ビルなどが安全に整備され、分散型のエネルギーネットワークと相まって災害時も十分な機能を発揮できる
- 防災に関する最先端の知見や震災の教訓が集まり、伝えられる

都市全体が安心の拠点となっている

- 誰もが安心して生活、活動でき、いつでも必要なモノを入手し、必要な情報へのアクセスが可能になっている
- まちの防犯・交通システムが整備され、安全に暮らしている

環境と共生するまちづくり

マンションの外壁は発電パネルと一体化し、地域のガスコージェネ施設からの給湯・給電とあわせ、通常時のエネルギーは地域で調達している。災害時でも蓄電設備とあわせ、最低限のエネルギーが確保される。また緑化階となっている中間階は風が通り、近隣住民、街路樹や公園で形成された緑をつたう鳥や昆虫の憩いの場にもなっている。

エネルギー源の多様化・分散化が進んでいる

- 大規模建築・開発地には、自立したエネルギー源と蓄電設備が整備され、分散型のエネルギーネットワークが構築されている

低炭素なまちづくりが進んでいる

- マンションやオフィスビルの省エネ化、創エネ化が進んでいる
- まちなかでは、フリーパスを使った電気バスや超小型電気自動車等を活用した交通ネットワークが形成されている

緑あふれる都市空間となっている

- 道路、公園、河川、建築物の屋上等を活用した緑のネットワークが形成され、都市は様々な生物であふれている
- 風の道を考慮した都市計画により、施設の配置やデザインがコントロールされている

魅力と活力あるまちづくり

この地域では製造業に代わり、様々な先端サービス産業が生まれているが、多様な文化を寛容に受け入れてきた神戸・阪神の歴史がその背景にある、と言うのが阪神文化研究を趣味とする昭武さんの持論だ。IT エンジニアの彼が夏姫さんと知り合ったのは、服飾デザイナーの彼女が計画する新店舗のシステム開発を担当したのが縁だ。彼の議論が夏姫さんの仕事にヒントを与えたことが大きかったのかもしれない。

歴史や生活文化が都市の魅力を高めている

- 地域の歴史や文化を背景としたまちなみ、建築物が保存され、物語として継承され、地域の愛着が育成されている
- 地域資源やサービスの集積が新たな産業や人々を誘引している

多様な都市機能の集積・再編が新たな活力を生み出している

- 地域のマネジメントにより、空き空間は新たな事業や活動のために投資され、イノベーションの原動力となっている
- 県内外から創造的な人材が集い、あらゆるモノやサービス・情報を必要なときに入手、活用でき、常に多くの人でにぎわっている
- 基幹産業からコミュニティビジネスまで、様々なレベルで誰もが働ける環境が整っている

自立と連携のまちづくり

この地域では、地域ぐるみで但馬や丹波などの集落との交流が進み、毎年農作業体験イベント等を実施している。最近、向かいの区画にあった複合ビルは高齢者向けコレクティブハウジングに改修された。上海やハノイでの勤務経験がある昭武さんやデザイナーの夏姫さんは世界中に友人を持ち、カンファレンス等で神戸を訪れた友人と港のカフェバーで情報交換を行い旧交を温めている。

多様な住まい方・空間による多様な交流が実現している

- コレクティブハウジングやハウスシェア・ルームシェアなど、様々な住宅が整備され、個人の希望により多様な住まい方が選択できる
- 共同住宅には交流空間が整備され、住民の趣味活動も活発で、都市内の多様な交流施設での出会いで新たなネットワークが生まれている

地域間の交流と連携が進んでいる

- 都市と農村のパートナーシップ等により、様々な地域間交流が進んでいる

広域的な地域づくりが進んでいる

- 各都市が必要な機能を分担、先進医療施設や国際研究機関の集積が進み、全国、全世界から人が集まっている

めざすべき将来像

地域で取り組む重点プロジェクト

「ひょうご都市ブランド構築プロジェクト」

地域がめざすまちづくり指標 例: 一人当たり総生産 主要駅昇降客数

安全・安心の拠点都市へ

大規模災害に備えた都市機能確保と迅速な復興対策

- 大災害に備えた地域ごとの防災計画、最低限の都市機能確保計画、事前復興計画の策定
- 阪神大震災、東日本大震災の教訓の整理と伝達

災害、交通、防犯等ソフト・ハードにわたる総合的な安全安心システムの構築

- 住宅や施設の耐震化・耐水化・不燃化と宅地耐震化
- 避難対策と都市型水害対策
- 要援護者の把握と支援方法の検討
- ユニバーサルデザイン、利用者目線での福祉のまちづくりの推進
- 地域連携による防犯、交通安全体制の整備

多様なエネルギー源を持つ低炭素都市へ

都市のエネルギー源の多様化・分散化

- 建築物や開発地への自立したエネルギー源の導入推進
- 都市廃熱や雨水の積極活用

建築と都市の低炭素化、緑あふれる都市空間の構築

- 省エネ・創エネ型住宅・ビルの普及促進、インセンティブの付与
- 自動車に過度に依存せず、エネルギーを浪費しない暮らしの普及
- 交通需要マネジメントの推進
- 都市緑化の推進と適正管理
- 都市農地の保全再生、風の道を考慮した都市計画の検討

歴史文化産業が輝く中心都市へ

個性あふれる都市ブランドの構築

- 歴史ある古いまちなみや近代化遺産、産業遺産などの保全活用
- 洗練された歴史や生活文化を活用したビジネス育成

先進的な都市機能の適正配置

- 都市機能の集約化に対応した新たなルールづくり
- 商店街の活性化、にぎわいを生み出す市街地整備の推進
- 新サービスや技術・デザインと地域資源の融合による産業化
- 生活関連サービス等、多様化するニーズに対応した多様なコミュニティビジネスの育成

多選択・多参画型都市へ

多様な住まい方の創出と多様な人材の活用

- 多様なライフスタイルに応じたまちなか居住の推進
- 空き空間の交流スペースへの転用
- 多自然居住、二地域居住の推進
- 既存コミュニティとマンションコミュニティの融合
- 地域空間や地域施設の「新しい公」による運営の促進

ひょうごの要としての機能充実と

世界にはばたく交流都市づくり

- ひょうごのまちづくりを支える人材育成
- 交通網等の交流基盤の整備
- 全体的・国際的な研究や教育等の基盤整備

取組方向

まちづくり基本方針（改定素案） IV 各主体の役割・県が取り組む重点施策

◆各主体の役割

まちづくりの各主体(住民・事業者、団体、市町、県)が、まちづくり基本条例の趣旨を踏まえ、協力と連携のもと本方針を参考にまちづくりに自主的に取り組めるよう、それぞれの役割を明記

住民・団体、事業者 ~まちづくりの主役~

・地域のまちづくりの主役(自発的かつ自立的なまちづくりの取組)

市町 ~まちづくりをプロデュース~

・地域に応じたまちづくり施策の実施
・住民・団体、事業者が取組むまちづくりへの支援

県 ~まちづくりをサポート~

・地域のまちづくりを牽引する施策の実施
・地域の優れた取組みの顕彰
・その他地域のまちづくりへの支援(調査研究、情報発信、総合調整等)

◆県が取り組む重点施策

各地域が自主的に重点プロジェクトに取り組むために、各プロジェクトにおいて県が先導して進めるべき重点施策を整理。県はこれを踏まえ毎年度のまちづくり施策体系を整理し実施

集落とその周辺 「絆」による暮らし再生プロジェクト

避難と孤立防止に重点を置いた災害対策 **安全安心**
断被災時の防災集団移転先の確保等、事前復興計画の策定に向けた防災・復興まちづくりアドバイザー派遣
断広場や避難路の整備など都市防災総合推進事業の推進
・我が家の耐震改修促進事業の推進
移動や買い物など暮らしの安心確保
・小規模駅舎のバリアフリー化、ノンステップバス導入支援
・コミュニティバスの運行支援、路線バスの運行支援

遊休地を活かす創エネの推進 **環境共生**
断民間事業者による創エネ施設設置推進に向けた県有地や県有施設の提供
自然環境の保全と継承、資源循環型の暮らしの実現
・緊急防災林整備・里山防災林整備
・ひょうごバイオマスECOモデル登録制度
・里山林の再生と森林ボランティアの育成

豊かな暮らしや伝統文化など地域の魅力の発見・発信としごとへつなげる取組 **魅力活力**
断広域景観形成の推進と景観支障建築物等への対応
断空き地空き家対策の推進(空き家の適正管理及び除却にむけた対応策検討)
・古民家再生促進支援事業
・歴史的景観地区・風景景観地区の指定、景観形成等住民協定の締結

U/Iターン者を活かした地域の担い手育成 **自立連携**
断「ひょうご田舎暮らしコンシェルジュ」認定等顔の見える情報発信
・多自然居住交流拠点整備事業の推進
集落の自立、集落間や地方都市との連携
断住民によるインフラや宅地、農地の整理方針の検討に向けた、集落再生アドバイザー派遣
断集落内移転や移動販売支援など、必要な支援制度の検討
・特別指定区域制度の運用による生活圏の維持
・小規模集落元気づく、ふるさと自立計画推進モデル事業の推進
・むらの将来検討支援事業の実施

地方都市 個性あふれる地方の拠点創造プロジェクト

周辺地域の災害対策拠点としての備えの充実 **安全安心**
断大規模災害に備えた都市機能確保計画、事前復興計画の策定に向けた防災・復興まちづくりアドバイザー派遣
・避難道路沿道建築物耐震化、津波避難ビルの指定推進
・我が家の耐震改修促進事業
・県有施設の耐震・耐水化と市町向けガイドライン策定
周辺地域の安心拠点の形成
断医療・福祉施設が集約された安心拠点の形成
・小規模駅舎のバリアフリー化、ノンステップバス導入支援
・ユニバーサル社会づくり推進地区の指定推進

地域エネルギーの効率化・自立化 **環境共生**
断民間事業者による創エネ施設設置推進に向けた県有地や県有施設の提供
断県有施設省エネ化や、創エネ・蓄エネ設備の設置と市町向けガイドライン作成
地域の自然や気候を生かしたまちづくり
・あわじ環境未来島構想(淡路)
・豊かな水を守り、生かす東播磨(東播磨)

地域の多様な歴史・文化の発見と発信 **魅力活力**
断広域景観形成の推進と景観支障建築物等への対応
・古民家再生促進支援事業、街並み環境整備事業
・祭、イベントづくり
・銀の馬車道(中播磨)・丹波の森構想(丹波)
まちの集約による賑わいと利便性向上
・人口減少期に適合した都市計画の見直し(道路、区画整理事業等の一部廃止)
・沿道土地利用対策の検討・都市再生整備計画事業の推進
・まちなか振興モデル事業の推進

空き空間を活用した交流促進と担い手育成 **自立連携**
断「ひょうご田舎暮らしコンシェルジュ」認定等顔の見える情報発信
・多自然居住交流拠点整備事業の推進
広域交通整備と地域交通対策
・高速道路六基幹軸等地域幹線道路の整備
・コミュニティバスの運行支援、路線バスの運行支援
周辺地域との連携による広域な地域づくり
・定住自立圏構想の推進
・つながり広がる「出る杭」プロジェクト(西播磨)・地域見本市(阪神北)
・山陰海岸ジオパーク(但馬)・交流の絆づくり(北播磨)

郊外ニュータウン 住民が主役のニュータウン再生プロジェクト

宅地の耐震化と自主防災組織の強化 **安全安心**
断大規模盛土団地等の宅地の耐震化推進
・自主防災組織強化推進
地区センター等のユニバーサルデザイン化
・明舞センター地区再生事業の推進
・ユニバーサル社会づくり推進地区の指定推進
・小規模駅舎のバリアフリー化、ノンステップバス導入支援

建築・開発における環境への配慮住宅やまちの低炭素化や創エネ、自然との共生に向けたモデル的取組 **環境共生**
断明舞団地での空き空間の菜園化と共同管理等緑のネットワーク形成に向けた取組実施
・新規開発地でのスマートタウンのモデル導入
断低炭素化に配慮した建築物の認定制度創設

空き地空き家等を活用した住民による新たなサービスや「しごと」の創出 **魅力活力**
・空き店舗へのNPO等誘致や公共用地等の再編余地活用等
断空き地空き家対策の推進(中古住宅流通の仕組整備による空き家活用促進、空き家の適正管理及び除却にむけた対応策検討)
断まちの熟成に向けた都市計画の見直し(住居専用地域への用途混在を認める用途地域見直し方針の作成)
断隣地を購入・活用する際等の支援制度の検討

若年代を呼べる住環境づくり **自立連携**
断県営住宅を活用しシェアハウス、グループホーム、交流施設や店舗を設置
住民の経験・能力を活かした担い手育成
断住民による再生計画策定に向けた団地再生アドバイザー派遣
ニュータウン再生の取組の発信
・空き店舗へのNPO等誘致や公共用地の再編余地活用、住民による再生計画の策定・運用、NPO等との連携による再生の仕組みづくり等の明舞団地再生の成果の発信

都市中心部 ひょうご都市ブランド構築プロジェクト

大規模災害に備えた都市機能確保と迅速な復興対策 **安全安心**
断大規模災害に備えた都市機能確保計画、事前復興計画の策定と防災・復興まちづくりアドバイザー派遣
・避難道路沿道建築物耐震化、津波避難ビルの指定推進
災害、交通、防犯等ソフト・ハードにわたる総合的な安全安心システムの構築
・我が家の耐震改修促進事業、人生80年いきいき住宅助成推進
・県有施設の耐震・耐水化と市町向けガイドライン策定
・サービス付き高齢者向け住宅供給促進
・震災の経験、教訓の発信・フェニックス共済への加入促進
・防犯優良マンション認定の推進

都市のエネルギー源の多様化・分散化 **環境共生**
断一定規模以上の建築開発時に創エネ設備設置検討義務づけ
断県有施設省エネ化や創エネ・蓄エネ設備の設置と市町向けガイドライン作成
建築と都市の低炭素化、緑あふれる都市空間の構築
断建築と都市の低炭素化推進(低炭素型都市計画の推進、スマートタウン認定による県民まちなみ緑化事業の優遇制度創設、低炭素化に配慮した建築物の認定制度創設)
・尼崎21世紀の森づくり、県民まちなみ緑化事業による都市緑化推進
・阪神なぎさ回廊プロジェクト(阪神南)

個性あふれる都市ブランドの構築 **魅力活力**
・都市景観形成地区の指定
・阪神間モダニズム等の近代化遺産や産業遺産の保全活用
・楽しいまち神戸(神戸)
先端的な都市機能の適正配置
断工場跡地の再利用に係る要綱と再開発促進型都市計画の連携
・広域土地利用プログラムによる大規模店舗の適正配置
・産業集積条例による企業誘致
・市街地再開発事業・都市再生整備計画事業の推進

多様な住まい方の創出と多様な人材の活用 **自立連携**
断県営住宅を活用しシェアハウス、グループホーム、交流施設や店舗を設置
・田舎暮らし都市部アンテナショップ設置支援
ひょうごの要としての機能充実と世界にはばたく交流都市づくり
・高速道路六基幹軸等地域幹線道路の整備
・関西3空港の適切な機能分担による航空ネットワークの強化

まちづくり総合支援

まちづくり専門家登録・派遣制度 多様な分野のまちづくり専門家登録・派遣制度の整備による間接支援(現行:福祉のまちづくり、花緑、景観、マンションアドバイザー、集落再生アドバイザー 拡充案:防災・復興まちづくり、団地再生)
優れた取組の顕彰と発信 「人間サイズのまちづくり賞」を4部門(①安全・安心②環境との共生③魅力と活力④自立と連携)に再構成し、優れた建築物や取組を表彰、発信